

人権啓発作品を紹介します

人権作文 中学生の部
最優秀賞

米原中学校 三年

問曾 乃愛さん

「命の大切さ
〜児童虐待を許さない〜」

人権とは、すべての人が生まれながら平等にもち、保障されなくてはならない権利です。この権利は、一人ひとりが、大切にされ、尊敬をもって人間らしく扱われることが保障されているのです。

六千二十三件。この数字は、私が住む滋賀県で平成二十七年に寄せられた児童虐待に関する相談件数です。過去最多となった相談件数のうち七十七パーセントが、前年度から相談ののっているケースで、解決の難しさをうかがわせています。また、テレビや新聞からも毎日のように繰り返される児童虐待

事件に関するニュース。親が自分の子どもを傷つけ、最悪の場合には命を奪ってしまう。すべての人が生まれながら平等に持っている人権を、誕生を一番喜んで大切に守ってくれるはずの両親が守ることもせず奪ってしまう。どうして、そんなひどいことができるのか。理解に苦しみます。せつかくこの世界に生まれてきたのに、こんなことがあっていいのでしょうか。人間は殺されるために生まれてくるわけでは決まてないのです。

私は、中学二年生の時に、職場体験活動で五日間、近所の保育所でお世話になりました。二歳児クラスの子どもたちは毎日、みんな元気いっぱい、いつも明るい笑顔でした。一緒にたくさん遊んで、給食やおやつを残さず食べて、手をつないでお昼寝をした五日間は本当にあっという間で、楽しい時間を過ごさせてもらいました。中でも印象に残っているのは夕方、お家の人がお迎えに来たことがわかると、みんな今日いちばんの笑顔を見せて帰る姿です。子

どもたちにとって、自分をしっかり守ってくれる親の存在は、子どもたちにいちばんの安心感を与えてくれて、明るく元気に過ごすことのできる、心の支えになっているんだなと思いました。

その一方で、親からの虐待によって受けた心や体の傷は、想像もできないほどの痛みを伴っているはずで、いちばん安心できる家の中で、安らぐことができない。そんなかわいそうな子どもたちがいることも、全て現実なのです。

すべての人が生まれながらにもち、保障されなければならぬ人権ですが、子どもたちには、自分を大切にしてくれる大人がまわりにいることが、とても大事なことだと思います。そして、自分を大切にしてくれる人たちがいれば、自分の中にも、人を大切にできる心が生まれてくるはずで、

先日、生後二日の赤ちゃんを抱っこする機会がありました。まだハッキリと見えていない目で真っすぐ見つめてくれる澄ん

だ瞳。私の指をギュウツと握りしめてくれる小さな手。そのすべてに、命の重さを感じる事ができました。一人ひとりが、かけがえのない存在として生きていくためには、一人ひとりが、命の大切さを考えなければならぬと思います。自分自身の命の大切さがわかれば、まわりの人たちのことも、大切に考えることができるのではないのでしょうか。

将来、私が母親になった時、両親が私を大切に育ててくれたように私も大切に育てていきたいと思えます。保育所で出会った子どもたちのような笑顔が、すべての子どもたちから見られる明るい世界になる日が来ることを、心から願っています。

問 市人権政策課(米原庁舎)

TEL 52-6629
FAX 52-4539

